

スクリーニング質問表の使い方

SQDの質問項目は、震災で被災した復興住宅住民を対象とした、訪問や検診の時に、精神的問題がないかスクリーニングするためのものです。一般に、心身の健康状態を簡単な問診あるいはアンケートによりスクリーニングすることは、簡単なことではありません。また精神的な問題に関しては、抵抗感を生みやすいので、上手く導入する必要があります。したがって、いきなり質問をするのではなく、挨拶を交わし、来意を告げ、世間話をするなど自然な流れの中で、使用すべきものです。質問の流れも抵抗感を減らすために、身体的な項目から徐々に精神的な項目になるよう並べてあります。

災害後に発生する精神的問題は多岐にわたりますが、この質問項目では「うつ状態」と「PTSD（外傷後ストレス障害）症状」に焦点をあてて、そのハイリスク者を見分けられるような内容にしてあります。

判定基準が示されていますが、診断を意味するのではなく、ハイリスク者を見分けるための基準です。この基準を満たす場合はかなりリスクが高く、継続した関与、あるいは専門スタッフへの紹介が必要であることを示します。しかし、質問にきちんと答えてなかったり、抵抗や否認が強い場合などは、必ずしも基準を満たさない場合があります。答えるときの態度や会話の内容などから、問題を感じたときは、専門スタッフと検討すべきでしょう。

項目数は多く感じるかもしれませんが、実際に施行してみると10分以内で終わることができます。なお、質問の内容は分かりやすい言葉遣いにしてありますが、相手の理解しやすいように、言い回しを変えても問題はありません。

【判定基準】

- ・ PTSD: 3、4、6、7、8、9、10、11、12のうち5個以上が存在し、その中に4、9、11のどれかひとつは必ず含まれている。
- ・ うつ状態: 1、2、3、5、6、10のうち4個以上が存在し、その中に5、10のどちらか一方が必ず含まれる。

【備考】

PTSDの3大症状およびうつ症状に対応するのは、それぞれ次の項目である。

- ・ 再体験症状: 4、9、11
- ・ 回避症状: 8、10、12
- ・ 過覚醒症状: 3、6、7
- ・ うつ症状: 1、2、3、5、6、10

参考文献

Fujii,S.,Kato,H.,Maeda,K:A Simple Interview-format Screening Measure for Disaster Mental Health: An instrument newly developed after the 1995 Great Hanshin Earthquake in Japan-The Screening Questionnaire for Disaster Mental Health (SQD) Kobe J Med. Sci. , Vol. 53, No. 6, pp. 375-385, 2007